

石川県剣連だより
剣風春秋
 一般財団法人移行
 設立60周年記念特集号
第33号
 発行
 一般財団法人
 石川県剣道連盟
 委員 石川 報 委 員 会

「一般財団法人」

への移行について

総務委員長 南 信廣

一 はじめに

当連盟は、本年十一月一日、それまでの任意団体から「一般財団法人」へ移行し、新たなスタートをいたしました。

剣道連盟の法人化に関しては、近年の社会情勢、とりわけスポーツ団体を取り巻く環境も大きく変化している中で、全剣連を始めとして、全国都道府県剣道連盟の半数近くが既に法人化に移行しており、その動きが加速されている状況にあります。当連盟といたしましても、本年が設立六〇周年の節目の年でもあるこの機会に、これまでの伝統と現状認識を調和しつつ時代に適応した組織体制の再構築を図るべく、本年四月から本格的に移行準備を進めてきたもの

二 推進状況

で、以下、概況を簡単にご報告いたします。

事務推進に当たっては、総務委員会の中に実効性のある「推進委員会」を設置するとともに、委員には、南、坂下（以上総務委）、米林（金沢・会計）、田上（加賀）、鈴木（能登）、寺内（県武）の六名の各委員を指名し、事務分掌的には、大きく「規程」「組織・人事」「財務」の三つに分けて、それぞれ検討を進めました。

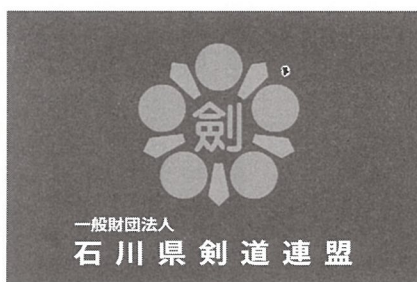
まず「規程」関係ですが、法人組織の要である「定款」の策定に当たっては、従前の「会則・施行細則」を基本としながらも、法令的要件の具備、時代の要請を踏まえた条項の見直しを行いました。

「組織・人事」関係については、本県規模に見合った組織とするため、体制のスリム化を図りつつも、評議員、理事の選任については、全部の郡市剣道連盟からとし、加えて、女性、実業団、刑務、道場連盟からも新たに選任いた

くなど、広く県下の地域、職域団体等からの構成といたしました。また、リスク対応として、普及委員会を「普及・綱紀委員会」に改めました。

「財務」関係については、当連盟の財務指標策定の参考とするため、八月には、各郡市剣道連盟のご協力のもと、それぞれの会員・会費の実態等についてのヒヤリングを実施しました。それらを踏まえ、各種会議開催に伴う交通費については、遠隔地の負担軽減も図ったところです。

また、十月から、主に経理事務担当の女性職員を新たに採用配置し、併せて連盟旗のデザイン・ロゴについても原形を活かしつつ改訂いたしました。



▲新調された連盟旗



事務局玄関の表示板

これらの案件処理は、毎月の執行部会、常任理事会と順を経て承認をいただき、そして、九月二

十一日の定例理事会での最終議決を得て、予定通りのスタートとなった次第です。

今回、このような形で順調に移行できましたのは、当連盟会員の皆様の深いご理解、ご協力はもちろんですが、何と云ってもこれまでの諸先輩が着実に積み上げてこられた伝統、実績の蓄積があったからこそであり、そのことに対し改めて深く感謝を申し上げます。

三 今後の課題

事務的には、関係規程の整備、会計事務の確立等早急に処理すべき案件が山積しておりますが、一番の課題は、当連盟の会員、役員としての自覚と誇りの保持だと思います。当連盟は、今後、法人格を有した団体として、社会的信用を得ることはありますが、それに伴って責任を負うことにもなりました。今年、その勇姿で日本が誇る富士山が世界文化遺産に登録されました。私たちは剣道も「日本の伝統文化に築かれた素晴らしい資産」であることを常に意識して、今、その継承者としての自覚と誇りをもって、次の七十周年、百周年にあるべく剣連の姿を求めて前進させなければなりません。どうか、会員の皆様の一層のご理解、ご協力をよろしくお願いたします。



石川県剣道連盟六十年の歩み

一 六十年の歩み

本連盟六十年の歴史を振り返るに当たり、二十年ごとの三期に分けてまとめてみたいと思います。

(1) 創生発展期(昭28～昭47)

剣道禁止時代(昭20～昭27)から解き放たれて、終戦後の混乱期中、先輩諸氏は苦境の中から昭和28年1月に本連盟を設立し、6月に第1回各種団体対抗剣道大会(郡市対抗剣道大会)を35チーム参加で開催している。さらに8月には11郡市参加による県体「剣道競技」が開催された。剣道に渴望していた先輩の意気軒昂たる様目に浮かぶ。

その後、昭和32年「全国警察官大会」個人戦において杉山 實先生の優勝もあり、組織強化、普及発展に力を入れ急速な発展をみた。

また、居合道においても、昭和37年には連盟内に居合道部を設け、組織の充実を図った。さらには本連盟の特色ある行事として、毎夏県内4か所における宿泊講習会を実施し、青少年の剣道普及とともに健全育成に貢献している。創生期の20年間で県内のほとん

どの剣道大会が創設開催され、今日の基本的なスタイルが整った時代であった。

(2) 充実期(昭48～平4)

昭和50年「剣道の理念」制定と、昭和53年「県立武道館」の落成をもって物心両面に渡る剣道環境が整い、充実期の高揚が図られることとなった。

昭和60年の全国高校総体(インターハイ)の開催(男子団体星稜高校3位)、平成3年の第46回国民体育大会の開催(石川県総合優勝、成年一部・二部・少年男子優勝)は本県剣道関係者が一丸となって組織の充実、大会運営の成功、選手強化・競技力向上を図り、大きな成果を得た充実期の頂点であった。

(3) 継承発展期(平5～平24)

平成5年の全国教職員剣道大会も団体開催の実績と自信を胸に、大会運営・選手強化のいずれも成功し、団体で大会二連覇を成し遂げた。

その後は、競技力を維持するために国体強化合宿も継続し、全体の底上げ・選手強化に努めている。その成果の一つが平成15年の

山下和廣氏、平成17年の末平佑二氏、平成23年の安江正紀氏、三先生の八段合格を頂点とする近年の中央審査における合格率の高さに表れている。

居合道部においても、平成8年の第31回全日本居合道大会の開催(石川県団体3位)は、本県居合道関係者が総力を結集し、運営・強化に取り組み、多大な成果をあげた。

武田清房範士八段を筆頭に、平成13年土井輝男氏、平成18年中村正人氏、平成23年河西洋治氏(故人)と八段合格が続き、石川県居合道の高さを全国に示した。

二 今後の課題

本連盟の今後に向けての課題について考察する。

(1) 組織体制について

本年11月の一般財団法人化を機に、組織体制の充実を図り、以て社会的責任を積極的に果たしていく組織として機能する必要がある。

(例)・青少年の健全育成

(剣道の教育的側面)

- ・国民の健康保持
- ・女子剣道の普及発展

(2) 選手強化について

(男女共同参画社会の実現)
現在ジュニア強化が進行中(平成24年)であるが、競技人口の底辺の拡大・充実を図る必要がある。

小・中・高・大・一般とつながる各年代において、指導者の確保など良い稽古環境を提供できるようにでありたい。そして各年代で全国レベルの競技力を目指し、他県との交流を積極的に取り入れ、継続指導ができる状況を作り出すことが急務であると考える。

(3) 社会的責任について

平成24年度からの中学校武道必修化を受けて、保護者・県民が剣道に寄せる期待・望むものを考えると、単に競技力の優劣にとどまらず、礼儀作法さらに人間形成の観点から自己完成を目指し、忍耐力・謙虚さ・奉仕心を合わせ持つ人材の育成を心掛け、剣道を終身にわたり続けるよう配慮した指導が必要である。そのため以下の二点は重要である。第一は技術ばかりでなく、その根底にある人間性が第一であることをわきまえた指導が大切であること、第二に誉める指導が大切なこと(旧来の一律に叱る・けなす指導では現代の子どもは止めてしまう)である。

最後に、先人のご苦勞を思うとき、剣道の継承・発展を担っている我々が先輩諸氏のご意志を常に心に留め置いて、さらに本連盟の発展のため力を注がなければならぬと決意する次第です。

(広報委員会)



交剣知愛

金沢国税局長 新谷 逸男

石川県剣連だよりに掲載させていただきます。今年七月に、沖繩から転勤していただき光栄に存しております。

石川県の県立武道館でお世話になっております。

仕事の関係で、各地にお伺いすることがありますが、赴任先で地元の剣道の先生方に竹刀を交えて稽古をしていただくことが、私の一番の喜びです。「交剣知愛」の言葉をいつも心に抱きながら稽古に励んでおります。

金沢でも、門外漢の私を、皆様があたたかく迎えていただき指導していただいております。深く感謝しております。また、前任地の沖繩県でも、県立武道館で稽古をさせていただき、暑さとの戦いで熱中症に気を遣いながらも楽しく稽古をしておりました。

税務の関係者の方々と、趣味やスポーツなどの話で「剣道を続けておられます」とお話をすると「剣道は珍しいですね、大変でしょ

う」と必ず聞き返されます。私にとって、剣道の稽古を続けることが、精神の支えとなると共に健康の支えでもあると思っております。また、稽古をいただいた沢山の方々とその後交友を深めて、生涯の友になっていただいた方もおられます。

私は、福岡県の中央部に位置する筑豊炭田の出身で、二人の兄が中学から剣道部に入って続けていたこともあり、自分も当然のごとく中学から剣道部に入部し剣道を習いました。高校生の時は、国士館出身の先生の厳しい指導などによって、高校総体の福岡県予選で団体戦準優勝することが出来ました。その結果、部員の何人かが、福岡県警にお世話になりました。私も、警察にお世話になりたいと考えましたが、夜間大学で少し勉強をしたいと考えた大学に通える税務の職場を希望しました。

昭和47年に高校を卒業し、当時

東京の新宿に在った、税務大学校に入寮して研修を受けました。クラブ活動も週二回行われており、私も剣道部に入り、大学の主任教授の半田利一郎先生(当時教士七段、後に全日本剣道連盟監事、豊島区剣道連盟会長)から指導を受けました。半田先生から、最初の授業の時に「税務職員は、時として納税者の方に恨まれることもあるので、正しい剣道をするように心掛けて下さい」とのお話があり、全国から入校した同期の仲間と面打ちを中心とした稽古を始めました。

税務大学校での一年間の研修を終了し、都内の税務署に配属され、夜間大学に通いながら、半田先生のお供で豊島区剣連の道場で稽古を続けることが出来ました。20歳前半のその時が、仕事・勉強・剣道と最も充実していたと思っております。

その後、東京国税局や国税庁の勤務が長くなり、なかなか稽古の時間が限られましたが、運良く30歳後半に七段を頂くことが出来ました。

国税庁の勤務の時に、当時の土田正顕長官(東京大学剣道部卒、

長兄が土田國保警視總監)に呼ばれて、国税職員にも剣道をしていられる人がいるから、全国の職員大会を開けとの指示がありました。税務職員でも中学や高校・大学で剣道を始め、職場に入っても趣味で稽古をしている仲間が結構おり、現在も、毎年四月に、全国の国税局や税務署の職員が税務大学校に集まり、楽しく懇親の大会を開いております。なお、第一回の大会には、橋本元総理にもご観戦していただき、その後稽古そして懇親会と楽しい思い出ができました。

若い国税職員には、家庭と仕事を大切にして、そして稽古を続けることが、何か自分の役に立つこともあると指導しております。私自身、仕事で剣道の稽古が続けられない時期もありましたが、家族の理解と指導いただく先生方の暖かい教えで現在も楽しく稽古をやる事が出来ております。

金沢での稽古は、仕事の関係などでかなり少ない状況ですが、今後も、自分の修行と若い方々の稽古のお手伝いをしていきたいと考えておりますので、ご指導を宜しくお願い申し上げます。

第36回全国スポーツ少年団剣道交流大会に向けて

期間 平成26年3月28日(金)～3月29日(日)
 場所 いしかわ総合スポーツセンター
 日程 3月28日 開会式 交歓交流会
 3月29日 団体個人予選リーグ
 3月30日 同決勝トーナメント

テーマ

東日本大震災復興支援

「とどげよう」

スポーツの力を東北へ」

第36回全国スポーツ少年団剣道交流大会が、全都道府県から48チーム380余名の選手・監督を迎えて開催されます。

本大会の趣旨は「団員にスポーツの歓びを経験する機会と、より伸びるための研修の場を与え、剣道を通じて団員相互の交流を深め、仲間意識と連帯を高めることにより、スポーツ少年団活動を一層豊かなものとし、地域における団活動の活性化を図ることを目的として実施する。」であります。全国から迎える選手諸君が、柔らかなる心の吸収力を持ち合わせるこの少年期に、ここ石川の地で試合をし、交流を図ることが生涯の良き思い出として残るよう願うものであります。



少年担当委員長
山森 太加幸

さて、本連盟といたしましても、県体育協会スポーツ少年団本部を中心に本大会に向けて着々と準備を進めているところでございます。10月10日に正式に実行委員会が発足し、去る12月8日には県スポーツ少年団大会をリハーサル大会として本大会に向けた試みを行いました。

当県代表選手も小学生団体、中学生個人男女、また開催地代表として金沢市代表の団体個人の選手も正式に決定されたところであります。特に小学生県代表チームは、昨年より県剣連にて取り組んでおりますところの県内ジュニア強化練習会から指定選手を募り、県内各地の若手指導者の指導の下、毎週の強化練習、県内外への遠征試合等に数多く出向き、強化を図っております。

本年開催された各種全国大会に

於きましても、小学生中学生共に着実な成果が上がって居るところです。この取り組みが、本大会はもとより、県内選手たちの相対的なレベルアップ、相互交流に繋がります、また将来を担う石川剣士の礎となることでしょう。県剣連会員各位の皆様の暖かいご理解ご協力をお願い申し上げます。

石川県剣道連盟設立60周年、また「一般財団法人 石川県剣道連盟」として新たに発足をした記念すべき年に、本大会を開催できまことは大きな喜びであります。石川県剣道連盟の益々の飛躍を図ると共に、大会成功に向けて役員・審判員の方々はもとより会員各位のたいなるご支援ご協力を戴きたいと思っております。本大会が成功裡に終わりますよう、心よりお願い申し上げます。

全剣連講習会「審判法」

事務局長 倉 久廣

期日 10月19日(土)
 講師 豊村 東盛 剣道範士

講習会には、県内各地域、各職

域から剣道指導に携わる73名が受講しました。

まず豊村講師は、ご自身の体験談を交えながら、

- 一 審判員の心構え・留意事項
- 二 有効打突の判定
- 三 反則事項

に関しての講話がありました。

続いて実技指導では、スポーツ少年団の試合を想定し、実際に小学生の試合を講習生全員が審判員として実施いたしました。審判員の位置取り、有効打突の判定等において、試合を中断しながら講師から懇切丁寧なご指導をいただき、講習生は豊村講師の説明を熱心に聞き入って学びました。

審判員はその大会のレベルで有効打突の判定基準を決めなければならぬ、個々の試合で判定基準を変更してはいけないこと、さらに五感を研ぎ澄まして審判しなければならぬこと等の指導を受けました。

また、講習会終了後、豊村講師には大変お疲れのところ県連稽古でもご指導いただき、厚くお礼申し上げます。

(全剣連「剣窓」より)

剣道部訪問 第1回

「羽咋高校剣道部」

県内の中・高の剣道部を訪問し、強豪校の練習方法など取材し、他の学校・指導者の参考に資することを願って、剣道部訪問を企画いたしました。第1回として先般の高校新人大会で男子2位、女子優勝の羽咋高校剣道部を訪問いたしました。



一 剣道部概要

1・2年生で男子12名、女子11名計23名、各学年平均男女各5名

という部員構成です。金沢地区の多い学校では学年平均10名というところもあるので、少数精鋭というイメージです。

二 指導理念

剣道部を指導するのは今年11年目を迎える田畑武志(46)先生です。開口一番先生は、「本校は進学校なので文武両道の実践が最大の課題です。部員が幸福な人生を送るために、剣道だけでなく、勉強や人間性を鍛え、人間としての基本姿勢を身につけることが目標です。」と話された。「剣道で全国大会上位入賞が目標ですが、文武両道の実践を踏まえ、短時間で効率の良い稽古を目指しております。」と付け加えられた。

三 部の活動時間

学校から徒歩15分かかる羽咋武道館で練習を行うのですが、平日では45分×7限授業の時は2時間15分の練習、50分×7限授業の時は1時間40分の練習で、電車利用の部員が多いため18時25分には終了し、速やかに帰宅し学習時間の確保に努めています。

四 部員への意識付け

練習の冒頭で監督から「来年6月の県総体に向けての意識付け」さらに「一人稽古」(帰宅してか

らの素振りなど)の大切さが語られた。

五 練習内容

- (1) 切り返し
 - 大きく×2回、速く×2回
 - 大きく、左右面を確実に
 - 最後の正面の後の残心
- (2) 左片手面打ち
 - 20本×2セット
 - 左手握りの確認
 - 手首を使って
- (3) 三人組掛かり稽古
 - 本打ち(8秒)×3セット
 - 元立しつかり受ける(受け方)
 - いなし体当入れて×2セット
 - 一息の掛かり稽古×2セット



六 男女主将談話

- (1) 男子 高西 祥主将
 - ・目標：全国大会出場
 - (インターハイ、選抜)
 - ・役割：チームをまとめる
 - ・しめるべき所も必要
 - ・試合：何試合目でも変わらず全力で気迫溢れる試合
 - ・両立：切り換えをうまく勉強との両立を図る

- (2) 女子 濱田詩織主将
 - ・試合：初戦から全力でかつ5人とも全力で各自が納得できる試合内容
 - ・役割：皆より先に動く
 - ・意識：部内で切磋琢磨

七 田畑監督談

- (1) 目標：文武両道の追求
- (2) 基本の重要性(基本力)
 - ・基本稽古のみの強化週間
 - ・基本到達度テスト

(例)・足

・剣道は「打つ、突く、かわす」に集約できる

・科学的トレーニング

・メンタルトレーニング

八 まとめ

- (1) 練習内容
 - ・よく練られた、短時間で効果のあるコンパクトな内容である。
 - ・3日間丁寧に内容・効果を説明し納得・咀嚼してから実践練習
 - ・基本の重要性を基本力とし、最優先とする。
 - (2) 生徒の自主性
 - 単にやらされている練習ではなく、目標達成のため最大限の努力を惜しまない、かつ文武両道の実践を目指している集団である。

女性として 剣道を楽しむ

女性委員会 岩脇 律子

石川県剣道連盟の一般財団法人化並びに設立六十周年おめでとうございます。これを機にますますのご発展を心よりご祈念申し上げます。

女性委員会について

さて今年度、県連の諸先生方のご尽力により女性委員会が発足しました。このことは六十年の長い歴史の中でもたいへん意義あることだと感じています。

目的は女性剣道の普及です。委員四人で普及をどうとらえるかということから話し合いました。普及とは、世間に広く行き渡らせること、ということ、女性剣道の普及については、

- ① 女子中高大学生が学生生活を終えて社会人になったときにも続ける場を提供すること。
- ② 生活パターン（結婚、出産、育児等）の変化により稽古を中断していた人が気軽に再開

できる場を提供すること。

(注) 普及は強化ではない。ととらえることにしました。

そこで今年度行ったことは、年間二回ある女子の大会後の稽古会と半日の研修会です。幅広い年代の方と稽古を楽しむことができた。研修会の後の懇親会では、いろんな立場の方と女性剣道について語らい、とても有意義でした。

今年度の活動の反省を活かし、来年度も委員を中心に普及に努めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私の稽古時間

稽古を続けて〇十年来、〇〇と剣道の両立は、私の中では永遠の課題です。現在は両立どころか、家庭・仕事・剣道の三本立てで、両立時代が懐かしいです。私の性格上、〇〇の方をきちんとやらずして稽古するということはありません。なので、家事と仕事に追われていますが、何とか時間を作って稽古をしています。幸い夫も剣道家ですから、県連や市の協会の稽古ができないときは二人でやることもあります。限られた時間の中で充実した稽古をすることを大切に

しています。

新たな楽しみ

ここ最近新たな楽しみを見つけました。大会や講習会で知り合った遠方の方と親交を深めていることです。

メールで近況を報告し合ったり、名産品をいだたり送ったりしています。先日は名古屋の審査会で顔を合わせ、話をすることができました。

また、初めて防具持参の旅も経験しました。旅先の先生や大学の後輩に連絡し、行程の中に稽古を設定しましたが、都合により実施できませんでした。残念でなりません。次回こそはと思っています。剣道を通じて交友関係が広がっていくことは大変嬉しいものです。

目標

女性として、どんな剣道を目指すのかは、常に考えています。年齢とともに体力の低下を感じていますが、真っ直ぐ向き合って長く続けていきたいです。

先日、東京の八段審査を見学しました。たいへん学ぶことがたくさんありました。年配の女性が数名受審しておられましたが、スピ

ードもパワーも男性より劣る女性が合格するのは極めて難しいという印象です。それでもどうにかあの場で戦うには…という視点で見ていると、自分だったら、やはり立ち姿美しく華麗な一本を決めてみたいものだと思います。柔道や相撲ならば力で負かされる所でしょうが、剣道は、相手との間に竹刀がある、間合いがある、それらの工夫によってそんな一本も可能になるはずですよ。これからの稽古がますます楽しみです。

短期の目標としては、来年も一緒に稽古している仲間とチームを組んで大会に出場することです。先鋒から大将までの年齢差を越えつつながらは剣道ならではのチームの足を引っ張らないよう稽古に励んでいきます。

これからも諸先生方、お仲間の皆様、どうぞよろしく願います。





「剣道七段に合格して」

七尾市 森田 義孝

合格体験記

この度、愛知県の審査会で七段に合格させていただきました。

受験資格を有した平成19年から20年と三回受験しましたが、いずれも不合格でした。七段の先生方との稽古では自分と違う剣道があると感じられることもしばしばあり、半ば諦めの気持ちがありました。

今年7月で12年間行なっていた中学校の外部コーチを辞したことから、自分の剣道を見直し七段を受験してみようと思ひ、恩師である田畑武正先生が稽古をされている宝達志水町の稽古会へ参加をお願いしました。

田畑先生との稽古では、構えが小さい、左手の位置が違ふと毎回指導を受け、その度に構え直しの繰り返しでした。他に「まっすぐ振り上げ打つことは高段者として当然のこと、もし運よく七段に合格したとしても、後で苦労するぞ。」と先生に指導され、構え、打ち等を意識しながら稽古を繰り返してはいますが、今でも出来ないままです。思ったように稽古が出来ていな

い中での審査会では、自分が感じていた七段の先生方に共通した印象がある『相手に負けない気迫と先をかけた攻め』を意識して臨みました。立会中は集中出来ていたのか約3分の時間が短く感じ、面を外した時にはすっきりした感じがありました。

余談ですが、形審査を終えてから結果発表を待つ5分ほどの時間は気持ちがそわそわして長く感じました。発表を聞いた時の安堵感と高揚感が、審査会での一番の印象として残っています。

今回の審査に際して、田畑先生には高校から始めた剣道の第一歩から今日まで指導していただき大変ありがとうございます。

また、宝達志水町稽古会で近藤先生、北川先生や会員の皆さん、七尾市稽古会では連盟の皆さん、時間を見て七尾の稽古会に来てくださる中本先生と多くの方々のおかげを頂き本当にありがとうございます。お礼申し上げます。

これからも稽古に励みたいと思いますので、ご指導をよろしくお願ひいたします。

「居合道七段に合格して」

居合道 錬士七段
作田 剛也

(無双直伝英信流)

この度の全日本剣道連盟居合道七段合格。私に取って身に余る光栄であり身の引締まる思いです。

これも偏に、武田清房先生、土井輝男先生、中村正人先生、県連山下和廣会長、小松林達也会長をはじめ、石川県剣道連盟の諸先生方、剣友各位のご指導、ご支援の賜物であり、先ずは書面をお借りして謹んで御礼を申し上げます。

当日朝七時台に開場前の審査会場に並び、六段受審者に混じって軽く汗を流し、これまでの指導を振り返り、指摘事項を直しているか、平常心で臨んでいるか、と自分に問いかけながら六段審査を拝見。十一時過ぎに七段受付、若い方を予想はして居りましたが、受付番号は2番、まさかの審査一組目。六段終了・七段審査の集合は午後二時頃。気合いを入れて入場したものの、第二会場の遅れで小次郎の心境。張り詰めた糸が一瞬緩んだ所へ「始め！」悔いの無い演武、平常心の演武は遙か彼方へ。足掻いても足掻いても肩の力が抜けない中、ただただ仮想敵だけを意識しての六分間。演武後、



退場で後ろを向いた瞬間から合格発表までの約二時間は、先生方に戴いたご指導を体現出来ない自分自身の不甲斐なさに、反省反省、ひたすらひたすら後悔後悔の長い長い一時でした。発表を受け会場へ、先に発表を見た県外の先生の「おめでとうございます」と伸ばされた両手と掲示板の1Bの文字。まさかまさか、思いもよらない結果に、頭の中は種々の思いと想いがぐるぐると。病弱、剣道との出会い、骨腫瘍と手術のため剣道断念、居合道との出会い。剣は私に生きる力を与えてくれました。県代表として出場させて戴いた全日本大会や、各地区開催の大会参加を通じ北は北海道・南は九州まで広がる剣友の輪。早々に各地より祝いの便りが届き、切磋琢磨の喜び。感謝感謝。今後はご恩に報いる為にも、尚一層の精進に努め、稽古を重ねる事は勿論、県居合道事務局として、斯道の発展の為微力を尽くさせて頂く所存でございますので、何卒倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【全国大会等の記録】(7~12月)

◎第5回全日本都道府県対抗女子

7月15日(祝) 日本武道館
1回戦 石川2本数②神奈川
◎全日本少年少女武道錬成大会
7月27~28日 日本武道館
大会二日目 第八ブロック
決勝 新化館③-1氷山(東京)
ブロック優勝 新化館(石川)

◎全国高校総体(インターハイ)

8月6~9日 佐賀市

▽男子団体 羽咋工業 予選2位
▽女子団体 星 稜 予選3位
▽男子個人 山崎(羽咋工) 1回戦
駒井(羽咋工) 1回戦
▽女子個人 濱田(羽咋) 1回戦
森田(星 稜) 3回戦

◎第55回全国教職員剣道大会

8月12日(月) 和歌山市
3回戦 石川②-1群馬
準々決勝長崎⑤-0石川
(ベスト8)

◎第43回全国中学校剣道大会

8月17~19日 静岡県浜松市
▽男子団体 津幡中 予選3位
▽女子団体 津幡中 予選2位
▽男子個人 山本(松任) 1回戦
中川(城南) 2回戦
▽女子個人 山川(宇ノ気) 1回戦
横井(羽咋) 1回戦

◎第52回全日本女子選手権大会

9月8日(日) 兵庫県立武道館

1回戦 長塚メー 阿部(神奈川)
2回戦 長塚 一コ興栢(宮崎)
◎第8回全日本都道府県対抗少年
9月15日(日) 大阪市
▽中学生の部
決勝T1回戦石川②(代)2千葉
2回戦石川1-③大阪A
(ベスト8)

◎第68回国民体育大会

9月29日~10月1日東京武道館

◎第48回全日本居合道大会

10月12日(土) べつぷアリーナ
五段1回戦 望月②-1菊池
2回戦 望月0-③井手
六段2回戦 中村1-②盆子原
七段1回戦 松原1-②岡嶋
◎第26回全国健康福祉祭剣道
10月26~28日 高知県宿毛市
予選 石川②-1仙台市
石川③-1神戸市
決勝T1回戦石川0-④高知A

◎第61回全日本剣道選手権大会

1回戦 中村コ- 山本(熊本)
2回戦 中村ト- 藤岡(和歌山)
3回戦 中村-ツ安藤(北海道)

中央審査会合格者

◇剣道 ▽七段

吉村 久志 垣内 軌悦
森田 義孝
▽六段
小西 博 服部 泰澄
細井 将守 西村 典丈
石田 尚史 中島 俊明

◇居合道▽七段

作田 剛也

◇杖道 ▽六段

ビットマン・ハイコ

《事務局職員の紹介》

◎三井 陽子さん(羽咋市)

10月から事務局職員として採用
いただきました。週3日の短い時
間ですが連盟のお役に立てるよう
頑張ります。

応募要項に『剣道経験もしくは
剣道に興味のある方』との記載が
あり、高校時代に剣道部に所属し
たこともあり志望いたしました。

秀でた選手ではなかったのです
が、剣道を通じて多くの大切なこ
とを学んだと思っております。何
より諸先生方、先輩後輩とのご縁
に今も感謝しております。

今後とも、どうぞご指導くださ
いますようお願いいたします。

林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
E-mail: budou@chive.ocn.ne.jp

●定休日/月曜日

【営業品目】
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります)



武道具の
ハシメト

金沢市上荒屋7丁目67 TEL 249-8233
〒921-8065 FAX 249-9139